

令和 7 年度

大阪大学

一般選抜（前期日程）

解答例又は出題の意図

国語（HFJE）

令和7年度一般選抜（前期日程）

国語（人間科学部・外国語学部・法学部・経済学部）

出題の意図

I

出題文は、稲垣諭の『「くぐり抜け」の哲学』（講談社、2024年）の一部で、初出は『群像』（講談社）に2023年9月から連載された『『弱さ』の哲学』という連載の一論考である。著者はフッサールが「人間とは異なる生を生きる身体の理解」を思考する際にクラゲを取り上げたことに着想を得て、本書の導入部分で著者自身の「くらげの現象学」を展開している。

出題文で描かれる人間によるクラゲの表象、クラゲの身体的特徴、クラゲの生態、そして人間との関係について理解できているかを問うている。

問一は、人間によるクラゲの表象の特徴を、本文冒頭の水族館でのクラゲの展示における演出と関連付けて理解できているかを問う。

問二は、私たち人間とは全く異なったクラゲの身体的構造を知ることによって、「私たちの経験の境界」＝「人間の身体と環境の境界についての認識」が変化する（揺らぐ）ことを説明ができるかどうかを問う。

問三は、人類が海洋生態系に与える影響によってクラゲの数が極端に増加し、生物多様性が損なわれるという懸念の内容について理解しているかを問う。

問四は、本文前段（水族館で人間がクラゲを鑑賞する場面）では離接しないとする一方で、後段（クラゲと人間が海洋生態系の頂点捕食者として競い合う状況を懸念する場面）では離接するとする理由を、人間とクラゲの関係性から説明できるかを問う。

II

出題文は、『所有とは何か——ヒト・社会・資本主義の根源』（岸政彦・梶谷懐（編）、中央公論新社、2023年）に収録された、文化人類学者小川さやか著「手放すことで自己を打ち立てる——タンザニアのインフォーマル経済における所有・贈与・人格」の冒頭部分である。東アフリカに位置するタンザニアにおける筆者の豊富なフィールドワークを元に、「所有すること」について、「贈与すること」「交換すること」「保険をかけること」など、他者との関係性に強く規定されたさまざまな経済活動と相互に結びついたものとして捉えなおそうとする論考であり、非西洋的な伝統を持つ社会における多様な所有のあり方を理解することができる読み物である。出題文を論理的に理解し全体の内容を的確に把握でき、かつ、大枠的に事象の本質を捉えることができるかを評価することを意図して出題した。

問一は、文中に用いられている漢字を正確に書くことができているかを問うものである。

問二は、文中において説明されている、欧米諸国や日本の「持たない暮らし」とタンザニ

アの「持たない暮らし」の違いを正確に理解し、その内容についての的確に説明できるかを問うものである。

問三は、タンザニア社会において「所有すること」は、他者との関係性に強く規定されたさまざまな経済活動と相互に結びついたものであることへの理解を深めるために、それと対置した「無色透明の「モノ」になる」という考え方を説明させるものである。文中の50字程度の表現を適切に選びながら的確に記述できるかを問うている。

問四は、「私的所有の失敗」のように見える」事態とはどういうことを指し、どう捉えることができるか、さらに出題文全体の内容を把握しつつ、そうした事態がタンザニア社会においてどのような意義を持つのかという筆者の主張を正しく読み取り説明できるかを問うものである。

Ⅲ

出題文は、江戸時代の文章で、古典についての基本的な知識があれば読める文章である。古典を読む際の基礎知識である仮名遣いについての考え方を確認しながら、筆者の主張を理解出来ているかを問うものである。

問一 ア 文脈を理解して、「だに」「をさをさ」などの語句に気をつけながら現代語訳出来ているかを問う。

イ 古典の仮名遣いについての理解が適切であるか、また、筆者の主張が読み取れているかを問う。

問二 「本なりしを」や、「にぞあるべき」などの箇所について、助詞・助動詞や構文に注意して的確に現代語訳できているかを問う。

問三 問題文前半の趣旨と、筆者の主張を理解できているかを問う。特に、「県居の大人」（賀茂真淵）や、「県居の大人」の「真名本」への判断に対する、作者の評価を説明できているかを重視する。

問四 文脈を正確に理解した上で的確に現代語訳できているかを問う。特に、「こ」の内容を正確に捉えられているかを重視する。

問五 本文全体の趣旨と、筆者の主張を理解できているかを問う。特に、「真名本」において「に」（仁）が加えられていること、また、その「に」がないのが古代の言い方として適切であるということを説明できているかを重視する。